

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成26年12月25日(2014.12.25)

【公開番号】特開2013-129748(P2013-129748A)

【公開日】平成25年7月4日(2013.7.4)

【年通号数】公開・登録公報2013-035

【出願番号】特願2011-279953(P2011-279953)

【国際特許分類】

C 08 L 23/22 (2006.01)
C 09 J 123/22 (2006.01)
C 09 J 11/06 (2006.01)
C 09 J 125/08 (2006.01)
C 09 J 133/04 (2006.01)
C 09 J 133/02 (2006.01)
C 09 J 129/06 (2006.01)
C 09 D 109/06 (2006.01)
C 09 D 123/22 (2006.01)
C 09 D 125/08 (2006.01)
C 09 D 129/06 (2006.01)
C 09 D 133/02 (2006.01)
C 09 D 133/04 (2006.01)
C 09 D 5/02 (2006.01)
C 08 L 25/08 (2006.01)
C 08 L 33/04 (2006.01)
C 08 L 29/04 (2006.01)

【F I】

C 08 L 23/22
C 09 J 123/22
C 09 J 11/06
C 09 J 125/08
C 09 J 133/04
C 09 J 133/02
C 09 J 129/06
C 09 D 109/06
C 09 D 123/22
C 09 D 125/08
C 09 D 129/06
C 09 D 133/02
C 09 D 133/04
C 09 D 5/02
C 08 L 25/08
C 08 L 33/04
C 08 L 29/04

【手続補正書】

【提出日】平成26年11月7日(2014.11.7)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0093

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0093】

【表1】

		実施例1	実施例2	実施例3	実施例4	比較例1
重量%	ポリイソブチレン	50	50	50	50	50
	スチレンーアクリル酸系共重合体	2.4	4.8			
	ポリビニルアルコール			2.5	5.0	
	ロジン石鹼					3.0
	ドデシルベンゼンスルホン酸塩					0.5
	水	47.6	45.2	47.5	45.0	46.5
保存安定性		○	○	○	○	×

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0094

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0094】

次に、実施例1、3、5、6、比較例1、2のエマルジョンのタック試験、ヒートシール試験を行い、表2に試験結果を示した。タック試験、ヒートシール試験方法は、以下のとおりである。

<タック試験>

OPPフィルム(パレンP2111)に、乾燥膜厚が5μmになるように、エマルジョンを塗工し、45で乾燥させた。その後、室温にして、指触により、タックの有無を判断した。室温時のタックがない場合をとし、タックが少しある場合は、タックがある場合を×とした。

<ヒートシール試験>

OPPフィルムの塗工面の上に紙をおき、80、10秒間、1Kg/cm²で、ヒートシールをする。紙とOPPフィルムをはがし、紙が破れたらヒートシール性があると判断した。ヒートシール性がある場合を、ヒートシール性がやや劣る場合をとした。

【表2】

	実施例1	実施例3	実施例5	実施例6	比較例1	比較例2
ポリイソブチレンエマルジョン (乳化剤:スチレンーアクリル酸系共重合体)	100		50			
ポリイソブチレンエマルジョン (乳化剤:ポリビニルアルコール)		100		50		
ポリイソブチレンエマルジョン (乳化剤:ロジン石鹼、ドデシルベンゼンスルホン酸塩)					100	50
スチレンアクリルエマルジョンA			50	50		50
室温時のタック性	△	△	○	○	×	-
ヒートシール性	○	○	○	○	△	-

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 9 6

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【0 0 9 6】

次に、実施例1、3のエマルジョンの防湿性試験を行い、試験結果を表3に示した。比較例3としたスチレンアクリルエマルジョンB（酸価：51、Tg：56）は、従来、防湿性が良いことで知られているエマルジョンである。防湿性の試験方法は、以下のとおりである。

<防湿性の試験方法>

JIS-Z-0208による防湿包装材料の透湿度試験方法（カップ法）に準ずる方法で行った。具体的には、エマルジョンをバーコーター#50にて、マリコート紙に塗工し、110、150秒乾燥した。その後、各試料の防湿面が外側になるように、恒温高湿槽（温度40、相対湿度90%）に入れ、24時間後の重量変化を測定し、透湿度を算出した。透湿度の単位はg/m²である。

【表3】

	比較例3	実施例1	実施例3
スチレンアクリルエマルジョンB	100		
ポリイソブチレンエマルジョン (乳化剤:スチレン-アクリル酸系共重合体)		100	
ポリイソブチレンエマルジョン (乳化剤:ポリビニルアルコール)			100
透湿度	130	19	21